

瀬田川および南湖におけるチャネルキャットフィッシュの成熟

石崎大介

1. 目的

近年、県内において特定外来生物チャネルキャットフィッシュの確認数が増加している。効率的な駆除を実施し、未然に漁業被害を防止するためには、対象種の成熟などの基本的な生態について把握する必要がある。

2. 方法

2012年から2020年3月までに瀬田川および南湖で採捕されたチャネルキャットフィッシュのメス246個体、オス188個体の採捕日、標準体長（以下、体長）、生殖腺体指数（GSI）のデータを収集した。これらのデータを用いて標準体長とGSIの関係を、成熟体長の400mm以上の個体については採捕日とGSIの関係を考察した。

3. 結果

メスでは体長400mm未満でGSIの高い個体も散見されたが、GSIの高い個体のほとんどは400mm以上であった（図1）。このことからメスの成熟体長は400mm以上であると推定される。オスでも400mm未満でGSIが多少高い個体が散見されたが、GSIの高い個体のほとんどは400mm以上であり、オスの成熟体長も400mm以上であると推定される。

またメスの体長400mm以上の各年の採捕月日とGSIの関係をみると4月にGSIがある程度高い個体が存在し、5～8月にはGSIが著しく高い個体が存在した（図2）。オスの体長400mm以上では4月からGSIが徐々に上昇し、6～8月には著しく高い個体が存在した。GSIの高い個体の採捕は10月まで見られた。このことから本水域でのチャネルキャットフィッシュの繁殖期は5～8月であると推定される。また雌雄ともに体長400mm以上の個体においてこれらの結果の一部を2019年日本魚類学会年会で発表した。

て4～5月の繁殖期前や繁殖期早期にもGSIが低い個体が存在するため、体長400mmに達した個体全てが毎年繁殖するわけではないと考えられる。洗堰上流で幼魚が確認された場合には400mmに成長する前に駆除し、新たな繁殖を阻止する必要がある。

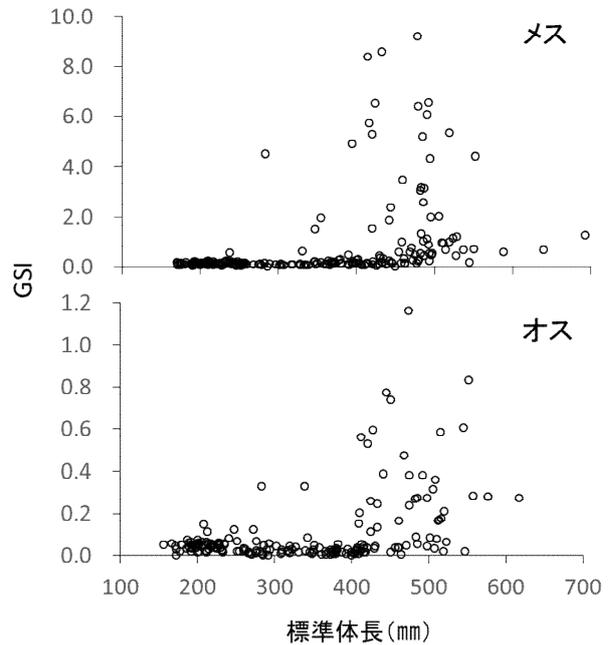


図1. 標準体長とGSIの関係

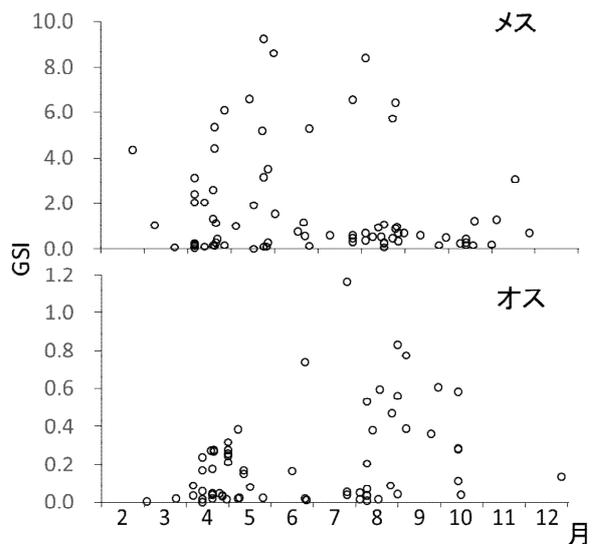


図2. 標準体長400mm以上の個体の採捕日とGSIの関係